

めぐみイエス・キリスト教会

2023年11月26日(日)第四主日礼拝

午前10時より

週報「通算第684号」



2023年標題聖句

第Iヨハネの手紙第5章4節～5節

《神から生まれた者はみな、世に勝つからです。私たちの信仰、これこそ、世に打ち勝った勝利です。世に勝つ者とはだれでしょう。イエスを神の御子と信じる者ではありませんか。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌196「祈れ物事」 p. 290

【交読文】 No.36 詩篇第116篇 p. 908

【賛美Ⅱ】 新聖歌259「聖いふみは教える」 p. 404

【使徒信条・主の祈り・先々週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.1「み言葉に帰ろう」

【聖書朗読】 ルカの福音書3章7節～14節(新約p. 113下段)

【礼拝説教】 《バプテスマのヨハネの教え》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所 ルカの福音書3章7節～14節(新約p.113)

3:7 ヨハネは、彼からバプテスマを受けようとして出て来た群衆に言った。「まむしの子孫たち。だれが、迫り来る怒りを逃れるようにと教えたのか。

3:8 それなら、悔い改めにふさわしい実を結びなさい。『われわれの父はアブラハムだ』という考えを起こしてはいけません。言っておきますが、神はこれらの石ころからでも、アブラハムの子らを起こすことができるのです。

3:9 斧もすでに木の根元に置かれています。だから、良い実を結ばない木はすべて切り倒されて、火に投げ込まれます。」

3:10 群衆はヨハネに尋ねた。「それでは、私たちはどうすればよいのでしょうか。」

3:11 ヨハネは答えた。「下着を二枚持っている人は、持っていない人に分けてあげなさい。食べ物を持っている人も同じようにしなさい。」

3:12 取税人たちもバプテスマを受けに来て、ヨハネに言った。「先生、私たちはどうすればよいのでしょうか。」

3:13 ヨハネは彼らに言った。「決められた以上には、何も取り立ててはいけません。」

3:14 兵士たちもヨハネに尋ねた。「この私たちはどうすればよいのでしょうか。」ヨハネは言った。「だれからも、金を力づくで奪ったり脅し取ったりしてはいけません。自分の給料で満足しなさい。」

●ポイント1.「まむしの子孫たち」とは？

※エペソ人への手紙2章1節～3節「かつての私たち」 (新約p.385)

2:1 さて、あなたがたは自分の背きと罪の中に死んでいた者であり、
2:2 かつては、それらの罪の中にあってこの世の流れに従い、空中の権威を持つ支配者、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊に従って歩んでいました。

2:3 私たちもみな、不従順の子らの中にあって、かつては自分の肉の欲のままに生き、肉と心の望むことを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りを受けるべき子らでした。

●ポイント2.「われわれの父はアブラハム(神の選民)」とは？

※ローマ人への手紙11章28節～29節「パウロの見解」 (新約p.317)

11:28 彼らは、福音に関して言えば、あなたがたのゆえに、神に敵対している者ですが、選びに関して言えば、父祖たちのゆえに、神に愛されている者です。

11:29 神の賜物と召命は、取り消されることがないからです。

●ポイント3.「良い実を結ばない木と結ぶ木」とは？

※ヨハネの福音書15章1節～6節「私はぶどうの木」 (新約p.215下段)

◎先々週の礼拝メッセージ【バプテスマのヨハネの宣教】

《ルカは、主イエスがメシアとして、3年半における公生涯において、深く関わることになる、当時の政治的な主要人物を挙げています。

皇帝ティベリウス治世の第15年とは、紀元27年9月もしくは10月のことです。伝承では、バプテスマのヨハネは、エッセネ派の修道院にいたと伝えられています。そして、ついに時が満ち、聖霊が神の言葉を告げ知らせ、彼は「悔い改めのバプテスマの宣教」を開始したのです。ヨハネはヨルダン川周辺のすべての地域に行き、罪の赦しに導く悔い改めのバプテスマを宣べ伝えたとあります。

「悔い改める」とは、自分が罪人であることを認めることです。罪が分からなければ、悔い改めることは出来ません。聖霊によって、罪が示され、その罪を心から悔い、そしてその罪を捨てること、あるいは離れることこそが、真の悔い改めであると思われまふ。つまり、心を入れ替えることであり、その意思表示こそが、水によるバプテスマです。

バプテスマのヨハネは、あくまでも道備えであつて、救い主ではありません。罪から解放し、罪を赦して下さるお方、すなわち「救い主」が必要であることを人々に知らせることが、バプテスマのヨハネの役割とも言えるでしょう。バプテスマのヨハネの後、おそらく6ヵ月後、主イエスが宣教を始められます。主イエスの宣教とは、マルコによれば、『「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」』と言われたように、福音を信じることなのです。福音とは、主イエス様ご自身のことです。このお方が「良い知らせ」そのものなのです。

使徒パウロは、『私たちの中でだれ一人、自分の為に生きている人はなく、自分の為に死ぬ人もいないからです。ですから、生きるにしても、死ぬにしても、私たちは主のものです。』と、勧めています。

この世から救い出された私たちは、イエス様をまことの主として、残されたこの世でのそれぞれの旅路を、主と共に歩んで行くのです。》

◎お知らせ

※次回礼拝は、12月3日(日)です。午後からコンサートがあります。